

# 令和四年度 入学試験（公募推薦）問題（国語）

次の文章を読んで、後の【1】～【6】に答えなさい。

海辺の町に住んでいたので、砂浜を歩いたり、小舟で海に出ることが多かつた。砂浜と波と空の間に漂う光は日によって驚くほどちがう。同じ浜辺の同じ場所の同じ岩に腰かけても、海は錆びついた重い扉を閉じて何ひとつ見させてくれないときと、不意にあかるい魔法の鏡をまわして波の中の世界を見させてくれることがある。

海の中には実にさまざまな生きものがいるが、潮がひいたときあらわになる海底の庭の花は、空気に触れれば醜く氣味悪いものが多いのに波の光の中では妖しいほどに美しい。潮の引くとき、【\*】の岩づたいに水の中を覗きこむと、あかるい日には、いそぎんちやく、ひとで、あわび、うに、なまこなどが、ゆれている海の草の間で咲きほこった海の花といった華やかさで岩の間をうずめている。

いそぎんちやくのことを英語では海のアネモネというが、アラスカの海のアネモネには薄い紅のもの、緋色のもの、錆朱のもの、鮮やかな緑のもの、真白な羽毛のようなもの、と実にさまざまあり、大きさも直径二、三センチの小さなものから、二、三十センチ以上もある大きなものまで千差万別である。ゆっくりと動いている触手が【⑦】花びらのようで、波の中をじっと見つめていると、急に時間がスロウにテンポを変えた別の世界にいる気分になる。

うにもおそろしく大きく、直徑二十センチから三十センチもあるようなもので、紫を帯びた紅の棘が海の鬼薊おにあさみといつた感じで、岩の間をびっしりと敷きつめるように咲いている。

なまこは黄色っぽい茶色の、いぼだらけで醜い動物だが、これが海の水の中では波の色を一層遙かに美しくするから不思議である。ひとでも一、三センチの小さく愛らしいのから、五十センチもある巨大なものまであり、鋭い棘のあるもの、爬虫類の皮のようなもの、きめの【(a)】なめした皮に似たもの、色もピンク、蒼味を帶びた灰色、血の色、朱色、紫などある。足の数も五つから二十何本もあるキカイなものがある。ひとでは空気に触れるとたちまちにして萎えしほみ、生きながらえることができないので、大潮のときしか生きているものを見るることは難かしい。

こうした動物が水の中で動くすばやさは驚くほどで、岩にしつかりとしがみついているあわびなどが、ときに滑るように目にもとまらない早業⑧で移動するのは面白い。あわびは目立たない海の岩の苔といつたもので、ちょっと見ただけでは無数に居ても全然見つけられないものである。余程目が馴れない、それとわからない。だいたいあわびのセイソクする岩にはあわびの殻に似たまだらのあるものが多いので、その岩のそこそこにしがみついているあわびは、波の中の海草の陰などになっていると、いくらみつめても見えない。

晩春から夏にかけて大潮の朝、いつもは見えない岩があらわになると、潮の引く早朝に起き出して、雲の間からさし込む光の波で海の中が【\*\*】のように一変するのを、飽きもせず岩の上から覗き込んだものである。巨大なひとでやうには毒々しいまでに大輪に咲きほこっている海の花と言えるが、あわびは静かな海の隠花植物である。水母くらげは岸近くにはいないが、入江や湾の浅瀬などに、ある季節に一面に咲く綿の花のように漂っていることがある。白い十字架のようなものがかすかに見える半透明なもの、赤い斑点のあるもの、西洋指貫⑨などの透明な小さなギャップで、流れ星の尾といった細い足がひらひらしている。水からあげた途端に、形が搔き消えてしまうような【①】ものなどある。舟をあやつって蒼い海をゆくとき、波を埋めて動く花といった水母の群れにあうと、花がすみ、という言葉を思い出したものである。

（大庭みな子『海の花』）

【1】二重傍線部ⒶⒷの漢字の正しい読みを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問 1 2】

- 1 Ⓐ ①はやわざ ②そうこう ③はやぎょう ④そうわざ ⑤はやごう  
2 Ⓑ ①さしぬき ②しかん ③ゆびぬき ④しむき ⑤ゆびかん

- 【2】空欄ⒶⒷに該当する語を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。  
3 Ⓑ ①こぼれちる ②よみがえる ③ほとばしる ④ひるがえる ⑤みだれちる  
4 ① ①しとやかな ②たおやかな ③のびやかな ④おだやかな ⑤かるやかな

【3】傍線部ⓐⓑの漢字として正しいものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

- 5 Ⓐ ①奇界 ②奇壞 ③奇解 ④奇恢 ⑤奇怪  
6 Ⓑ ①棲息 ②正息 ③静息 ④姓息 ⑤成息

【4】空欄\*と\*\*に該当する語を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

- 7 \* ①海岸線 ②波打際 ③水平線 ④瀬戸際 ⑤地平線  
8 \*\* ①ひのき舞台 ②はれ舞台 ③まわり舞台 ④はつ舞台 ⑤おもて舞台

【5】傍線部「きめの」に続く(a)として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問 7 8】

- 9 ①深い ②強い ③厚い ④粗い ⑤固い

【6】波線部のように記した筆者の思いとして、ふさわしいと考えられるものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 10】

- 10 ①晩春になつたので、早く海辺の生きもの達にあいに行かねばと何とも落ち着かない、という思い。  
②存在感の薄い水母だが、考えてみると、人生もそのように儂いものかもしれない、という思い。  
③長い間、あの生きもの達にあえていないことが、私の心を侘しいものにしている、という思い。  
④晩春から夏を実感できるのは、やはり、水母の群れにあつた時をおいて他にはない、という思い。  
⑤海辺の生きもの達を心に描くと、懐かしく穏やかな気持ちにいつも浸ることができる、という思い。

二次の文章を読んで、後の【7】【11】に答えなさい。

私は、日夜、大きな寝台に寝ている。日本中にある寝台の中で、一番大きい寝台だと云つても□(ア)でないかも知れない。ナポレオンの寝台より大きいだろう。

この寝台は、枕もとと脚の方と両側が本棚になつていて、手を伸しさえすれば好む本を抜き取れる。そればかりではなく読み度いと考へて枕もとへ運んだ本がいつの間にか、寝台の布団の上にも積み上つて了い、大きいのを自慢の寝台が身を漸く横たえるだけの窮屈なものに成っている。本と云うものは片附けてしまつたら、二度と探し出して読む機会は失われる。私は、本の洪水の中にいて、一年でも二年でも片附けようとしない。【\*】この寝台は、私の為のものか、本を寝かせるのが目的のものか分らなく成つて了つた。

いそがしく仕事に追われて暮らしているが、この寝台に横たわっている時間が私の一番幸福を感じる時である。あたりを見廻して、さあ、何を読もうか、と思案する。幾度か繰返して読んだ本もあるが、新刊のものもある。嫌いなものや、下等な本には、無論、私は寝台に乗る名譽は与えない。ここには信頼している友人たちから送つて貰った本が多い。それを手に取りながら、私は著者の顔付や話癖を思い泛べ、寝ころんでいて失敬だが、と、胸の中で挨拶する。ゲエテにもプラトンにも同じ無礼を働いているのだから①して貰うより他はない。

寝室の窓の外には、私の大切にしている木犀の巨きな木がある。この花の咲く秋晴れの昼の読書は、誰れからも羨まれてよいもののように独りで決めている。その季節になると、去年の今時分は何を読んでいたかなどまでが、微風に送られて来る花の香の裡に泛んで来る。どうやら一年間の進歩は自分に認められないのがいつもだが、毎年のこの幸福は戦争の間にも害されることがなかつた。食物に不自由していたが、木犀の花が匂い、疎開されるのさえ惜しんだ仲善しの本が手のとどくところに在つた。戦争中、私がここで読んでいたのは、やはり外国の文学書が多かった。以前に読んだものを、復習していたのである。

私はひどく寒がりだから、冬が来ると、【\*\*】布団の中が天下で一番居心地のよい場所になる。本を支えている手が冷たいので、湯たんぽか小さい手あぶりを近くに置いてある。時には片手だけ手袋をはめている。寝台と云うのは、もともと片附ける必要のない、万年床に出来上つているのだ。これを発明してくれた者に感謝しなければならない。仏蘭西語では、手放せない愛読の書をリーヴル・ドゥ・シュヴェ、【(b)】の書と云う。座右の書と同じ意味なのだが、寝台を使つてお国柄だから、机に向つて正座する東洋流の行儀のよい趣きはない。けれど、難しい本を読んでいる内に、うとうとと睡つて了う楽しさは何と無邪氣で快いものであろう。袴をはいて机に向つて舟を漕ぎ始めるような不徹底で未練がましいものでなく、この世の最上の快樂の一つに算え入れてもよかろう。ああ、哲学や思想問題の書物の楽しさよ。

調べ物をする時や、筆を執る時は、無論、私は、起きて出て、きちんと机に向う。家の者の云うところに隨うと、仕事中の私は実に寄り附けない可怖い顔をしているそうである。そのせいか、いつからか眉間に縦の筋が何本か入つて消えなく成つた。けれど、赤ん坊でも布団から起きると気難しくなる。私が、執筆や調べ物に起きるよりは好き勝手な本を読める寝台の上を好んだところで不思議はなさそうである。物を書いている時間よりも、他人の書いた書物を読んでいる時間の方を永くしたいと云うのが、多年の私の念願であった。悪いことだが、なかなかこの望みが達せられない。掃除だけはさせているのだが、寝台の上の書物の山は、いよいよ高くなつて、万年雪の代りに埃を白く置くばかりである。

(大佛次郎『本の寝台』)

【7】 空欄⑦⑧に該当する語を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 11 12】

- |    |      |      |      |      |      |
|----|------|------|------|------|------|
| 11 | ⑦ 虚栄 | ② 過大 | ③ 誇張 | ④ 尊大 | ⑤ 虚飾 |
| 12 | ⑧ 猶予 | ② 放免 | ③ 恂度 | ④ 救免 | ⑤ 堪忍 |

【8】 傍線部「余地が」に続く(a)として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問 13】

- 13 (a) ① 取って ② 掘って ③ 作って ④ 測って ⑤ 切って

【9】 傍線部「の書」の前に置く(b)として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問 14】

- 14 (b) ① 枕上 ② 枕頭 ③ 枕辺 ④ 枕腕 ⑤ 枕籍

【10】 空欄\*と\*には同じ語が入ります。正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問 15】

- 15 ① ようやく ② ことさら ③ さすがに ④ いよいよ ⑤ なおさら

【11】 波線部のように記した筆者の思いとして、ふさわしいと考えられるものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 16】

16 ① よくもこれほどになるまで読んだものだという、満足と後悔とが入り混じった、複雑な思い。

② 人生で最も大切なのは書物を愛すること、といった自らの信念を毎日、再確認できる、という思い。

③ 書物の高い山は、それだけ念願が果たされていることを表してもおり、まんざらでもない、という思い。

④ 高くなる一方の書物の山を見るとさすがに気にはなるが、結局、そのままにしてしまう、という思い。

⑤ 自宅で万年雪を味わうことができるのも、やはり書物のおかげと改めて感謝せねば、という思い。

16

三次の問【12】～【16】の四字熟語の空欄に入る語として正しいものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【12】 変□自在【解答欄は問【17】】

①元

②幻

③言

④玄

⑤現

【13】 吳越□舟【解答欄は問【18】】

①堂

②道

③動

④同

⑤導

【14】 純余曲□【解答欄は問【19】】

①説

②節

③接

④切

⑤折

【15】 本末□倒【解答欄は問【20】】

①天

②展

③転

④添

⑤典

【16】 □意工夫【解答欄は問【21】】

①創

②総

③相

④双

⑤想

四 次の問【17】～【21】の文章中、力タカナで記された言葉の漢字として正しいものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【17】 「今回の問題拡大について、全生徒に改めて注意をカンキする必要がある。」【解答欄は問【22】】

①勘気

②還帰

③換気

④喚起

⑤還気

【18】 「この記録を読んだ時、半世紀前の日々がホウフツとしてよみがえった。」【解答欄は問【23】】

①彷彿

②法拂

③報拂

④邦拂

⑤訪拂

【19】 「先輩の優勝を知り、我々はカイサイを叫んだ。」【解答欄は問【24】】

①開催

②快哉

③皆済

④解碎

⑤回債

【20】 「この日の発表のために、彼はケンサンを積んできたのだ。」【解答欄は問【25】】

①顕鑽

②健鑽

③賢鑽

④剣鑽

⑤研鑽

【21】 「私の人生は、結局、バレイを重ねるだけのものであった。」【解答欄は問【26】】

①馬札

②婆嶺

③馬齡

④婆齡

⑤馬嶺

【22】

②婆嶺

③馬齡

④婆齡

⑤馬嶺

【23】

②健鑽

③賢鑽

④剣鑽

⑤研鑽

【24】

②快哉

③皆済

④解碎

⑤回債

【25】

②健鑽

③賢鑽

④剣鑽

⑤研鑽

【26】

②婆嶺

③馬齡

④婆齡

⑤馬嶺

【27】

五 次の問【22】～【26】の作品の主な登場人物として正しいものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【22】『野菊の墓』（伊藤左千夫）【解答欄は問【27】】

- ①仙吉  
②民子  
③薰  
④鮎太  
⑤吾一

【23】『メアリー・ポピンズ』（P・L・トラヴァース）【解答欄は問【28】】

- ①グリンチ  
②チルチル  
③ジェーン  
④ジュディ  
⑤ピッピ

【24】『牛をつないだ椿の木』（新美南吉）【解答欄は問【29】】

- ①海蔵  
②メロス  
③杜子春  
④ジョバンニ  
⑤勇太（ユタ）

【25】『ドリトル先生シリーズ』（H・ロフティング）【解答欄は問【30】】

- ①ジヨー  
②ドロシー  
③スクルージ  
④クック  
⑤トーマス

【26】『チーム・バチスタの栄光』（海堂尊）【解答欄は問【31】】

- ①山内桜良  
②湯川学  
③勝呂二郎  
④田口公平  
⑤栗原一止

【31】